

母の会と 時間



武南高志

幼稚園における幼児の保育を良くしてゆこうと思ふとき、家庭との連絡をできるだけつとめて、幼稚園側は家庭における幼児の生活を知り、家庭側では幼稚園における幼児の生活ぶりを知ってもらい、幼稚園と家庭のよい協力が必要とするはいうまでもないことであつて、そのことの成否いかんが幼稚園教育効果の上にも大きな影響を及ぼすといつてもよい。そこが、幼稚園教育が他の学校と異なるところで、フレーベルが母に重きをおいたのもそこにある。幼稚園

とは、単に学校で幼児を教育するだけでなく、家庭、殊に母親とともに教育する。幼稚園と家庭が表裏一体となつて教育にあたらねばならぬ。そういうところから、幼稚園では早くから母の会が設けられている。私もは以上のような考えをもつて幼稚園を始めたので、園児として幼児を託される以上、母親もまた全面的に協力していただくことを強く求める。特に入園をきめる面接のときには、その点を強調して承知を願う。そのせいでもあるか、母の会の出席

率はよく、全員の八、九割に及んでいる。会の開催については、どこの園とも大差はない。ただ少しく気を使つてゐることは、出来るだけ短い時間に能率をあげる集りにしたい、ということである。全体の母の会は、一学期に二、三回開く。知らせは必ず一週間前に出す。そしてそれには、開会と閉会の時刻を明記しておいて、それを守る。たとえ出席が少なくても、定刻になつたら開会する。そして閉会時になつたら話の中途であつてもやめて散会する。このように長い間おこなつてきたので、出席する人は定刻から十五分位の間に集る習慣がついてゐる。この会には主題をきめて約四十分、園長が話す。そののち園の行事、また諸注意などを話して終ることになつてゐる。たいてい午後一時半からで、三時半には終つて帰つていただく。それは夕方の主婦たちの用事に対する配慮からである。

そういう際にも、あとに残つて特に教師

と懇談をされるかたもあるが、ひとりか二人で終る。待つてゐることもできないで、帰り急ぎをするということになるので、そのおぎなひをするために、一学期に一回か二回、少数の人で懇談をする会を開いてゐる。これは私どもでは「グループ母の会」といつているが、七、八人の母親に来ていただき、これも二時間、始めから終りまで、母親と教師全体と話し合ひをする。講演などはない。ぶつつけに、「——ちゃんはこの頃、おうちではどう？」というぐあいに話をきり出す。そして母親同志、母親と教師の間にいろいろな話、もちろん園児を中心としての話であるが、これによって教師はその子どもの生育史、家庭の様子、その家のやり方、ならわしなど、いろいろなことを知ることができるとし、また母親は幼稚園でのわが子の様子をいろいろときいて、思い過ぎしていたことや、思い足らなかったことに気がつく。

このグループをどういうようにして組み合わせるかについては、いろいろとやってみた。すなわち、住居の近所を一群とした。しかしこの場合、近いためによくないこともあって、その次には離れた所のものを一群とした。また園児の出生月によつたこともある。時には個人面接のように二十分ぎざみに出席時刻を指定することもあつた。いろいろ考へてグループをつくつて、できるだけ有効にと心を使うのであるが、園児全体の母親をひと通りすませるには十数回を要するから、毎週一回、時には二回は開かないと、一学期に一巡しない。これも、知らせは数日前に出して、その出欠をただし、欠席の場合は他の人を加え、欠席者はあとまわしにし、もれなく出てもらうようにしている。

以上のような会合や、その他、時に応じて家庭と連絡のための「知らせ」は、謄写刷と連絡帳により、口頭で伝達することは

一切しない。そのことは入園前の母の会でよく知らせておく。それらの知らせは、できるだけ簡潔なものとして、読むよりも見てわかるような書き方をする。連絡帳というのはA6判の小型ノートを各自用に備へておいて、必要に応じて書き入れて持ち帰らせる。そしてそれは、翌日必ず幼稚園に返すことにしてある。ちよつと手数であるが、その日その園児について何かあつたとき、一筆して家庭に連絡することにおいて、家の方でまた気をつけてもらつたり、いらぬ詮議だてをしなないことになる。

幼稚園の母の会が、いろいろなことのために利用されて結構なことであるが、私どもでは母親は子どもにとって大切な保育者であるから、幼稚園とともにそのことを第一義として手を尽してもらいたいと思ひ、かたがた中流家庭の主婦たちの忙しい家事の間からつくり出す時間を、むだにさせないようにと心がけている。(小金井幼稚園)